

2018

# 国語

## 注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊩ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学五年生の久助君は、お父さんの言いつけで放課後に勉強をした後、友達が集まっているところを探して近所を歩き回っていた。みんなは徳一君の家に集まっているのではないかと考えてそこへ向かう途中、藁積（乾草が積んであるところ）のそばで、「ほら兵」と呼ばれている同級生の兵太郎君に出会った。

兵太郎君は、てぶらで変に浮かぬ顔をしていた。

「みんな何処に行ったか知らんかア」と久助君がきいた。

「知らんげや」と兵太郎君が答えた。そんな事なんかどうでもいいという顔をしている。① 丸太棒の端を大工さんがのみで、ちよつちよと彫つてできたようなその顔を、久助君はまぢかに a と見た。

「徳一がれに居やひんかア」と、久助君がまたきいた。

「居やひんだらア」と、兵太郎君が答えた。赤とんぼが兵太郎君のうしろを通って行って、乾草にとまった。その翅が陽の光をうけてきらりと光った。

「行って見よかよオ」と、久助君がじれったそうにいった。

「ううん」と兵太郎君はなまへんじをした。

「なア、行こうかよオ」と、② 久助君はうながした。

「んでも、徳やん、さっきおつ母ンといっしよに、半田の方へ行きよったぞ」と、兵太郎君はいつて、強い香を放っている乾草のところ近くに近づき、なかば転がるようにもたれかかった。

久助君は、徳一君のところにも仲間たちはいないことが分って、がっかりした。が兵太郎君の動作を見たら、きゆうに、ここで兵太郎君と二人きりで遊ぼう、それでもじゆうぶん面白いという気がわいて来た。乾草の積んであるところとか、藁積のならんでいるところは、子供にはひじょうに沢山の楽しみを与えてくれるものだ。そこで久助君も兵太郎君のそばへいつて、自分のからだを、ゴムまりのように乾草に向って投げつけた。③ 乾草はふわりと、やわらかに温かく久助君をうけとった。とたんに、ひちひちと音をたてて、ぱったが頭の上から

豆畠まめばたけの方へ飛んでいった。

久助君は、頭や耳に草のすじがかかったが、取ろうとしなかった。乾草の山は昼間じゆう太陽に温められていたので、そこにもたれかかっている、お母さんのふところに抱かれていたじぶんを憶い出させるようなぬくとさだった。<sup>④</sup>久助君は猫ねこのようにくるいたい衝動しょうどうが体の中なかにうずうずするのを感じた。

「兵タン、相撲すもうとろうかやア」と、久助君はいった。

「やだ。昨日きのう相撲すもうしとって、袖そでちぎって家で叱しかられたもん」と、兵太郎君が答える。そして膝ひざを貧乏びんぱんゆるぎさせながら、仰向けあおむけに空を見ている。

「んじゃ、蛙かえるとびやろかア」と、久助君がいう。

「あげなもな面白おもしろかねえ」と、兵太郎君は一言いちごんのもとにはねつけて、鼻はなをきゅつと鳴らす。

久助君はしばらく黙だまっていたが、ものたりなくてしょうがない。 b と兵太郎君の方へ転がり近づいていって、草の先を、仰向あおむいている兵太郎君の耳の中へ入れようとした。

兵太郎君はほら吹きで、ひょうきんで、人をよく笑わせるが、こういう種類のからかいはあまり好まない。自尊心が傷つけられるからだ。「やめよオツ」と、兵太郎君がどなった。

兵太郎君が怒おこって久助君に向って来れば、<sup>⑤</sup>それは久助君の望むところだった。

「あんまり耳糞みみくそがたまつとるで、ちよつと掃除そうじしてやらア」といって、久助君はまた草の先で、兵太郎君の頭にべしやんとはりついた耳をくすぐる。

兵太郎君は怒おこっているつもりであつたが、くすぐったいのでとつぜんひあつというような声をあげて笑いだした。そして久助君の方ほうにぶつかって来た。

そこで二人は、お互いが猫の仔このようなものになってしまったことを感じた。それから二人は、乾草にくるまりながら、上になり下になりしてくるいはじめた。

しばらくの間久助君は、冗談じやうだんのつもりでくるつていた。相手もそのつもりでやっていることだと思っていた。ところが、そのうちに、久助君は<sup>⑥</sup>一つの疑問にとらわれた。どうも相手は本気になってやっているらしい。久助君を下からはねのける時に久助君の胸を突ついたが、どうも冗談半分じやうだんはんぶんの争まじい場合の力の入れかたとは違ちがっている。また久助君を上から抑おさえつけるときの、相手の瘦やせた腕うでがぶるぶるとふるえている。冗談半分じやうだんはんぶんならそんなことはないはずである。

相手が真剣なら、此方も真剣にならなきゃいけない、と久助君はそのつもりになって、一生懸命にやりだしたが、そうするうちに間もなくまた次ぎの疑問が湧いて来た。やはり兵太郎君は冗談半分と心得てくるっているらしい。久助君の手が、あやまって相手の脇の下から熱っぽいところにもぐりこんだとき、兵太郎君はクツクツと笑ったからである。

相手が冗談でやっているのなら、此方だけ真剣でやっているのは男らしくないことなので、此方もそのつもりになるうと思っていると、間もなくまた前の疑問が頭をもたげる。

二つの疑問が交互に現れたり消えたりしたが、二人はともかくくるいつづけた。

久助君は顔を乾草に押しつけられて、乾草をくわえたり、乾草があるつもりでひっくり返ったところに乾草がなくて、頭をじかに地べたにぶつけ、じーんと頭中が鳴渡って、熱い涙がうかんざりした。

また、しっかりと、複雑に、手足を相手の手足にからませているときは、自分と相手の足の区別などはっきりつかないので、相手の足を抑えたつもりで、自分のもう一方の足を抑えたりしていることもあった。

取っ組み合いは夕方まで続いた。帯はゆるみ、着物はだらしなくなってしまい、じっとり汗ばんだ。

何度目かに久助君が上になって兵太郎君を抑えつけたら、もう兵太郎君は抵抗しなかった。二人は c となってしまうた。二町ばかり離れた路を通るらしい車の輪の音がからからと聞えて来た。 ⑦ それがはじめて聞いたこの世の物音のように感じられた。その音はもう夕方になったということ久助君にしらせた。

久助君はふいと寂しくなった。くるいすぎたあとに、いつも感じるさびしさである。もうやめようと思った。だがもしこれで起ちあがって、兵太郎君がベソをかいていたら、どんなにやりきれぬだろうということ、久助君は痛切に感じた。おかしいことに、取っ組み合いの間中、久助君はいっぺんも相手の顔を見なかった。今こうして相手を抑えていながらも、自分の顔は相手の胸の横にすりつけて下を向いているので、やはり相手の顔は見えていないのである。

兵太郎君は身動きもせず、じっとしている。かなり早い呼吸が久助君の顔に伝って来る。兵太郎君はいったい何を考えているのだろう。

久助君はちよつと手をゆるめて見た。だが相手はもうその Z 虚に乗じては来ない。久助君は手を放してしまった。それでも相手は立ちなおろうとしない。そこで久助君はついに立ちあがった。すると兵太郎君もむっくりと起きあがった。

兵太郎君は久助君のすぐ前に立つと、何もいわないで地平線のあたりをややしばらく眺めていた。何ともいえないさびしそうなまなざしで。

久助君はびっくりした。久助君のまえに立っているのは、兵太郎君ではない、見たこともない、さびしい顔つきの少年である。

何ということか。兵太郎君だと思いきや、こんな知らない少年と、じぶんは、半日くるっていたのである。

⑧ 久助君は世界がうらがえしになったように感じた。そしてぼけんとしていた。

いったい、これは誰だれだろう。じぶんが半日くるっていたこの見知らぬ少年は。……

なんだ、やはり兵太郎君じゃないか。やっぱり相手は、ひごろの仲間の兵太郎君だった。

そうわかって久助君はほっとした。

あたりはもう、うす暗くなっていた。着物から草のごみをはらい、帯をしめなおすと、てれくさい気持ちで、久助君は兵太郎君にわかれた。<sup>(注5)</sup>しっけ、ともいわないで。

だが、それからの久助君はこう思うようになった。——わたしがよく知っている人間でも、ときにはまるで知らない人間になってしまうことがあるものだ。そして、わたしがよく知っているのがほんとうのその人なのか、わたしの知らないのがほんとうのその人なのか、わかったものじゃない、と。そしてこれは、久助君にとって、<sup>⑨</sup>一つの新しい悲しみであった。

『久助君の話』新美南吉の文章による

(注1) 「徳一がれに居やひんかア」 ……方言。徳一の家に住まいだろうか。

(注2) ぬくとさ ……温かさ。

(注3) 貧乏ゆるぎ ……貧乏揺すりのこと。座っている時などに、膝ひざを動かし続けること。

(注4) 「あげなも面白かねえ」 ……方言。あんなものは面白くない。

(注5) しっけ ……方言。「失敬」という別れのあいさつ。

問一 空欄 a、b、c にあてはまる適当な言葉を次の中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア ぎくり                      イ しいん                      ウ すつく                      エ ころころ

オ どんどん                      カ はらはら                      キ つくづく                      ク まちまち

問二 波線部X～Zのここでの意味として適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

X なまへんじ

- ア 相手に反対する否定的な意見のこと。  
イ いいかげんで気のない受け答えのこと。  
ウ 言われたことにすぐ答えを返すこと。  
エ はつきり返事をせず、ごまかすこと。  
オ よくよく考えた上で結論を出すこと。

Y ひょうきん

- ア 明るく皆から好かれていること。  
イ 真剣に真実を言う姿勢がないこと。  
ウ 調子に乗りすぎる場合があること。  
エ よく考えず軽率な判断で動くこと。  
オ ふざけて人を面白がらせること。

Z 虚に乗じる

- ア 油断を利用してつけ入ること。  
イ 迷わず一気に突き進むこと。  
ウ ますます調子に乗っていくこと。  
エ これまでと態度を変えること。  
オ 苦し紛れに態勢を立て直すこと。

問三 傍線部①「丸太棒の端を大工さんのみで、ちよつちよと彫つてできたようなその顔」・③「乾草はふわりと、やわらかに温かく久助君をうけとった」とありますが、この部分に用いられている文章表現を次の中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- ア 反復      イ 省略      ウ 直喩<sup>ちうご</sup>      エ 倒置法      オ 擬声語<sup>ぎせいご</sup>      カ 擬人法

問四 傍線部②「久助君はうながした」とありますが、ここで久助君はどのような心情ですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 相手が、自分の予想していた徳一君ではなく兵太郎君だったため、普段の友人関係を考えて、警戒<sup>けいけい</sup>しつつ言葉を選んでいる。  
イ 普段の兵太郎君の態度やここでの言動を考えると、何度も同じことを繰り返して言わないと伝わらないため、うんざりしている。  
ウ 仲間達が徳一君の家に集まっていることを期待し、一緒に行くことに対して乗り気にならない兵太郎君をもどかしく思っている。  
エ わざわざ言わずとも自分の気持ちを分かってくれることを期待していたため、真剣に聞こうとしない兵太郎君に腹を立てている。  
オ 内心で期待していた相手ではなかったものの、今の自分にとっては貴重な遊び相手であり、大らかに受け入れようと考えている。

問五 傍線部④「久助君は猫のようにくるいたい衝動が体の中にうずうずするのを感じた」とありますが、これはどのような心情ですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 相手にちよつかいを出し、構<sup>かま</sup>ってもらいたいという子供っぽい思い。  
イ 自分の欲求に突き動かされるままにあれば、発散したいという思い。  
ウ 温かさや安心感から、自分の心ゆくまでのんびりしたいという思い。  
エ 思うように自分の提案に賛同してくれない相手にいらだつ思い。  
オ せっかくな乾草の中で遊ぶ機会なので、十分に活用したいという思い。

問六 傍線部⑤「それは久助君の望むところだった」とありますが、なぜ「望むところ」だったのですか。五十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑥「一つの疑問にとらわれた」がありますが、「疑問」とはどのような疑問ですか。「〜という疑問。」につながる形で、四十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑦「それがはじめて聞いたこの世の物音のように感じられた」とありますが、そのように聞こえたのはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問九 傍線部⑧「久助君は世界がうらがえしになったように感じた。そしてぼけんとしていた」とありますが、これはどのような様子を表した表現ですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 信じられない出来事に驚き、思考が止まってしまっている。
- イ 軽い気持ちで始めた遊びが思わぬ結果となり、困っている。
- ウ 意図せず世界の真実に触れたことを自覚し、感動している。
- エ 予想外の出来事だが、現実を受け入れようと必死になっている。
- オ 遊び過ぎて、思い違いをするほど疲れた自分にとまどっている。

問十 傍線部⑨「一つの新しい悲しみ」とありますが、そのように感じたのはなぜですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア ほんの軽い気持ちで始めた遊びから、思わぬ世界の真実に直面してしまい、重大な責任感を自覚したため。
- イ 普段の遊び相手ではない友人と遊んでしまったために、友人関係が変化してしまい、元に戻れなくなったため。
- ウ 意外な真実を見つけてしまったばかりに、自分の身の回りの出来事が以前より面白く感じられなくなったため。
- エ 自分は相手への認識が一瞬変化したが、相手もそうであるかは分からず、自分の見方の限界を知ったため。
- オ 自分は普段、決して世界の全てを認識できているわけではないことに気付き、切ない無力感を抱いたため。



二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

『おもひでぼろぼろ』（1991年、監督…高畑勲）というスタジオジブリ制作の映画があります。主人公のタエ子が、小学校時代の回想シーンの中で、リンゴをフォークでつつきながら、「3分の1を4分の1で割るっていうのは……」とつぶやく印象的なシーンがあります。それに対して、タエ子の姉は「ひっくり返して、かければいいのよ。ほら、こうして」と答えます。だけど、タエ子は納得できないのです。「え、だけど、リンゴ3分の1を4分の1で割るんですよ。だから、リンゴはうんと小さくなって……。どうして増えちゃうのよ」しかし、算数の得意な姉は続けます。「そんなこと考えなくていいの、ひっくり返せば」と。

① こんな思いを、みなさんも抱いたことがあるのではないのでしょうか。

数学に興味を持ってないのも、千差万別。そう言い切ってはいけないけれど、タエ子のように、そもそも論を考えてしまう。人間はそもそも考えるものなのです。

自分とはどういう存在なのか？ 人目も気になるし、お洒落もしたい。自分のことを考えるなかで、数学と自分との関係を、自然とマジメに考えるんです。分数を引つ繰り返して点数をとって、親や先生を喜ばせるよりも、自分の中から湧き起こった不思議に対して、そちらのほうを重視したいんです。タエ子は2代になってもそんな女性として描かれていました。

学校の先生も、立ち止まって考え続ける生徒に向かつて、こう言うかもしれません。「② そんなことを考えるな。君が考える問題は試験に出ないから」ナンセンスだよ。たしかに、それを考えること自体、1円の得にもなりません。本書でみてきた数学者たちのように、永遠に考えることになるかもしれません。先生はそこに答を与えられないから、言うのです。いい高校に行き、大学に行くほうが明るい未来が開けるよ、と。そのような先生にも悪気はありません。

実際のところ、分数のわり算は小学校で習いますが、きちんと教えるのは、さらにそれを生徒に理解させることは容易なことではありません。ほかにも教えなくてはいけないことが山ほどあるなかで、現実にはみなさんも「分数のわり算は、引つ繰り返してかける」という方法しか教わっていないのではないのでしょうか。

でもそろそろ、③ そんな時代も終わりを迎えているようです。ベビーブームで教室から子どもが溢れている時代は過ぎ去り、少子化の時代。受験戦争もかつての熾烈さは姿をひそめつつあります。何より、価値観は多様化して、受験は one of them になりました。受験のために勉

強するモチベーションが今はもうないんです。価値観が多様化した。受験はワンオペゼムになったのです。<sup>(注4)</sup>

もう1つ、興味深いことがあります。<sup>④</sup> 中学と高校で、数学に大きな違いがあるのです。

中学校の授業で習う数学は、暗記だけでもある程度、テストの点をとることができます。もちろん努力も必要ですが、要領が良ければ覚えることができます。Ⅱ 相対的に「勉強」ができるのです。A なぜなら、覚えること自体、コツをつかんでいる人にとっては、そんなに難しいことではないからです。みなさんも、幼少期から今までの、自分の人生の記憶はありますよね。好きなことは覚えているでしょう。人間は正直にできていて、興味を持ってないものは覚えられないのです。

B そして、高校の数学の授業がはじまると、中学時代は数学の成績が良かった優等生が、突然悲惨な点数をとることがあります。「私、できない？」と。暗記では歯が立たない状況に接する。それが中学と高校の違いです。

なぜでしょう。中学の数学は、問題と解法まで含めて暗記ができるのです。量的にも、全部覚えてしまえば、なんとかなる程度。C すなわち、考えなくてもいいのです。

国語・算数(数学)・理科・社会、主要科目のなかで、「考えること」が先鋭化しているのが、実は数学という学問です。D だからこそ高校になると、考えなければ解けなくなり。出題範囲も広がり、量も多くなるので暗記では済ませられません。E そこで「暗記」から「考える」に転換しなければいけないのに、暗記で済ませようとすると<sup>⑤</sup> しつぺ返しを食らってしまうのです。

どうすればいいのでしょうか。答は、みなさんのこれまでの経験の中にあります。<sup>⑥</sup> むりしてがんばる「勉強」がダメなら、「学ぶ」と「習う」をまとめた「学習」がいいのでしょうか。たしかに「学習」の方がより a 意味の言葉です。F しかし、「数学を勉強する」も「数学を学習する」も実際はほとんど b 意味にしか聞こえないのではないのでしょうか。私たちは、興味・関心があることに対しては我を忘れるほど熱中し、没頭するものです。ふと我に返ったときに、何かができるようになっているのです。逆に興味・関心のないことをやる時には、むりしてがまんする「勉強」になってしまうのです。

ですから数学も「勉強」や「学習」ではなく、興味・関心を持ったならば我を忘れるほど熱中し、没頭し、気がつけば「数学ができる」「数学がわかる」ようになるはずなのです。まさに、「好きこそものの上手なれ」ですが、この「好き」が問題です。学校のテストでいい点数をとったから「好き」、いい点数がとれなかったから「嫌い」ではありません。他人と比べた点数に左右されるのではなく、<sup>⑦</sup> 自分だけの価値判断で数学が好きかどうか大切だということです。 『世界の見方が変わる「数学」入門』桜井進の文章による)

- (注1) ナンセンス……まともに取り上げる価値のない様子。ばかげたこと。くだらないこと。  
(注2) 熾烈さ……勢いが盛んで激しい様子。  
(注3) on of them ……ワンオブゼムと読む英語。いろいろある中の一つということ。  
(注4) モチベーション……意欲。やる気。  
(注5) 先鋭化……鋭くとかつている様子。

問一 波線部Ⅰ「千差万別」Ⅱ「相対的」の語句の意味が完成するよう( )の中に言葉を入れなさい。ただしすべて五字以内とします。

- A 千差万別……多くのものがそれぞれ( )こと。  
B 相対的……( )と比べて考えること。

問二 傍線部①「こんな思い」とはどのような思いですか。もっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分の疑問が否定されて悔しい思い。  
イ 自分の疑問が簡単に解決して晴れ晴れとする思い。  
ウ 自分の疑問がさらに深まりどうでもよいとあきらめる思い。  
エ 自分の疑問が簡単な答えで片付けられ納得できない思い。  
オ 自分の疑問が拡大しさらにとまどい混乱する思い。

問三 傍線部②「そんなこと」とは何をさしていますか。本文中の言葉を使って、十五字で抜き出しなさい。

問四 傍線部③「そんな時代」とはどのような時代ですか。もっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 数学に興味の持てない生徒が多い時代。

イ 数学と自分との関係をまじめに考える時代。

ウ いい高校や大学に行くために数学の他にも習うことがたくさんある時代。

エ ベビーブームの後の時代が終わった後の少子化の時代。

オ 受験のために数学を勉強することが重要な時代。

問五 傍線部④に「中学と高校で、数学に大きな違いがあるのです」とありますが、「中学の数学」と「高校の数学」の違いを五十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑤「しっぺ返し」の例を具体的に表している部分を本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問七 傍線部⑥「むりしてがんばる『勉強』がだめ」な理由としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 覚えること自体、コツをつかんでいる人にとっては難しいことではないから。

イ 好きなことは覚えられるが、興味を持っていないことは覚えられないから。

ウ 要領よく覚えることが、無理に覚えるよりも大切で効果的だから。

エ むりにがんばるよりも学ぶと習うをまとめた学習の方が成績が上がるから。

オ テストでよい点を取ることで好きになるので、むりしてがんばっても仕方ないから。

問八 空欄 a・b に入る言葉として適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 相対的な      イ 多様な      ウ 同じ      エ 異なる      オ 自発的な

問九 傍線部⑦「自分だけの価値判断で数学が好きかどうかが大切」とありますが、それはなぜですか、五十字以内で説明しなさい。

問十 本文の内容に合うものとしてもつとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 数学に興味を持ってないのは「そもそも」を考えると先生から否定されるからである。
- イ 人間は「そもそも」を考えるものなので、数学においてもしっかり考えることが重要である。
- ウ 少子化の時代は価値観が多様化するので、数学についての考え方も千差万別になる。
- エ 中学でも高校でも受験のためにテストで点数をとれるよう数学を勉強することが大切である。
- オ 数学をよく学習するとテストでいい点数をとれるので、数学を好きになることができる。

問十一 二重傍線A「なぜなら」と同じ働きをする接続の言葉を二重傍線B～Fから一つ選び、記号で答えなさい。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 高得点を取るための作戦をネる。
- ② ヒニクな結果となった。
- ③ 国のコンカンをゆるがす大事件。
- ④ 試合のショウインを監督から聞いた。
- ⑤ 胃が弱っているのでポウインボウシヨクを避ける。

[問題はここまです。]



